

2021年1月22日[金]—3月22日[月]

会期中一部展示替があります(2月16日に展示替)

開館時間：[1月-2月]午前10時から午後6時30分/[3月]午前10時から日没後30分

(展示室への入場は閉館30分前まで)

休館日：火曜日(ただし2月23日は開館)

感染症対策のためご観覧前に日時指定をお願いいたします。

(12月26日[土]よりオンラインにて日時指定受付および日時指定入場券販売開始)

菊竹清訓

Kiyonori Kikutake

山陰と建築

San'in and Architecture

菊竹清訓は、《島根県立美術館》(1998)の設計を手がけた戦後の日本を代表する建築家です。自邸《スカイハウス》(1958)、《出雲大社庁の舎》(1963)といった作品や、建築運動「メタボリズム」などによって、国際的にも高い評価を受けています。島根県では、知事も務めた第23代田部長右衛門との関係から、当館の前身である《島根県立博物館》(1958)をはじめ多くの建築を設計しました。菊竹清訓の没後10年に開催される本展では、菊竹による山陰地方の建築に加え、代表的な作品や、生涯を通じて取り組んだ未来都市の構想を紹介し、菊竹建築の魅力を紹介します。



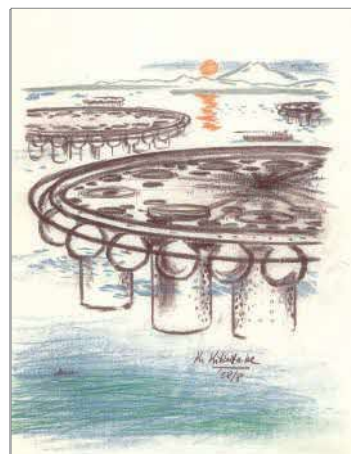
スカイハウスと初期の作品

若くして自身の設計事務所を設立した菊竹清訓は、同郷のブリヂストンタイヤの創業者・石橋正二郎から、木造建築の改築の仕事を数多く依頼された。

こうした仕事の「解体」「組み立て」の作業によって、菊竹は日本建築の「更新」という概念を見出すことになる。

また正方形のワンルームを、4つのコンクリートの壁柱で持ち上げた自邸《スカイハウス》を発表し、戦後のモダニズム建築の旗手として注目を集めた。

スカイハウス／1958年／撮影：川澄明男



メタボリズムと未来都市の構想

建築評論家の川添登は、1960年に

建築家の菊竹清訓、大高正人、黒川紀章、槇文彦、

グラフィックデザイナーの栗津潔、

インダストリアルデザイナーの榮久庵憲司を召集し、

メタボリズム・グループを結成した。

メタボリズム・グループは、この年、東京で開催された

「世界デザイン会議」で、「メタボリズム」を提唱し、

新しい都市と建築を提案したのだった。

《塔状都市》、《海上都市》から始まる未来都市の構想は、

菊竹が生涯を通じて取り組んだ仕事である。



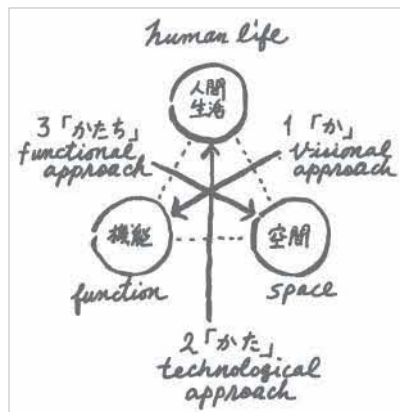
1. 海上都市1958 スケッチ(部分)／1958年 情報建築蔵
2. アクアポリス／1975年／画像：沖縄国際海洋博覧会協会
3. 海上都市1963 模型



都城市民会館 模型／1966 年／情報建築蔵 撮影：川澄明男

方法と作品

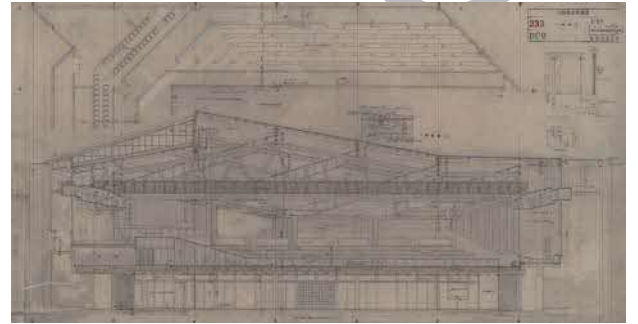
菊竹清訓は、《出雲大社庁の舎》の設計を手がけた1960年頃から設計とは何かという問題に直面し、独自の的方法論を構築し始める。「か・かた・かたち」の三段階の設計理論を展開した菊竹は、自信を持って1963年の「国立京都国際会館設計競技」に臨んだ。菊竹の応募案は、実現されなかったが、この方法論によって、生涯、数多くの作品を生み出し、《東京都江戸東京博物館》(1992)や《九州国立博物館》(2004)といった大作も実現した。



設計の三段階構造

山陰の建築

島根県松江市に博物館を建設する計画を進めていた第23代田部長右衛門は、久留米市の《石橋美術館》を視察し、博物館の設計を菊竹清訓に依頼することを決心する。1957年に島根に招かれた菊竹は、出雲大社に案内され、本殿の壮大な建築に強い印象を受けた。その後、知事となった田部長右衛門によって、菊竹は島根で多くの建築を設計している。本展では、松江市、出雲市、米子市・境港市、萩市で建設された菊竹による建築を紹介する。



4. 島根県立博物館／1958年 [撮影：高橋菜生]

5. 島根県立美術館／1998年

6. 島根県立武道館 矩計図A／1969年 文化庁国立近現代建築資料館蔵



菊竹清訓／2010年頃
撮影：石黒唯嗣

菊竹清訓 Kiyonori Kikutake (1928-2011)

福岡県久留米市に生まれる。

1947年に早稲田大学理工学部建築学科に入学し、在学中に「広島平和記念カトリック聖堂建築競技設計」(1948)で3等に入選した。1950年早稲田大学を卒業。1953年、25歳で菊竹建築研究所を創立した。(1962年菊竹清訓建築設計事務所に改称)ブリヂストンタイヤの創業者・石橋正二郎からの依頼で《石橋文化センター》(1956)の設計のほかブリヂストン関係の建物を多く手がけた。1958年には自邸《スカイハウス》を発表し、日本の新しい住宅建築として、注目を集めた。1960年に川添登、黒川紀章らとともに「メタボリズム」を提唱し、「世界デザイン会議」に参加した。また「か・かた・かたち」の設計理論を展開したことで知られる。1964年には、《出雲大社庁の舎》(1963)の設計によって、アメリカ建築家協会(AIA)汎太平洋賞、芸術選奨文部大臣賞、日本建築学会賞作品賞の各賞を受賞した。1969年、代表的な著書『代謝建築論』を刊行。日本万国博覧会の《エキスポタワー》(1970)、沖縄海洋博覧会の《アクアポリス》(1975)など数々の博覧会でも活躍し、《東京都江戸東京博物館》(1992)、《九州国立博物館》(2004)を手がけた。

■記念講演会

「風景の建築家 菊竹清訓」

事前申込不要・参加無料

日時：2月7日[日] 14:00－(13:30 開場/約90分)

講師：千代 章一郎 (島根大学 学術研究院

環境システム科学系 建築デザイン学コース教授)

会場：島根県立美術館ホール(95 席/当日先着順)

▷通常の半分の定員で開催

■ワークショップ A：けんちくカフェ

「Sky House New!!」

みんなも菊竹先生になってみる」

要事前申込・参加無料

内容：「スカイハウス(空の家)」は菊竹先生の代表作。

菊竹先生になったみんなは、どんな「スカイハウス」を
おうちに建てますか？

日時：2月28日[日] 10:30－15:30

午前/設計図を描こう

午後/家建てよう▷昼食各自

講師：千代 章一郎 (島根大学 学術研究院

環境システム科学系 建築デザイン学コース教授)

対象：小学3 年生以上 ▷小学生は保護者同伴

定員：15 組 30 名 ▷申込多数の場合抽選

会場：島根県立美術館アートスタジオ

◎出来上がった作品は企画展「菊竹清訓 山陰と建築」会期中、
島根県立美術館ロビーに展示します。

■ワークショップ B

「着せ替えドミノ」で

建築空間を組み立てよう！

要事前申込・参加無料

内容：ペーパークラフト「着せ替えドミノ」を

使って、建築空間を組み立てます。

日時：3月21日[日] 13:30－16:00

講師：高増 佳子(米子工業高等専門学校建築学科教授・

「着せ替えドミノ」考案者 T*O)

対象：小学3～6 年生▷保護者同伴

定員：10 名程度 ▷申込多数の場合抽選

会場：島根県立美術館アートスタジオ

■美術講座

「菊竹清訓 山陰と建築」

事前申込不要・参加無料

日時：3月14日[日] 14:00－(13:30 開場/約90分)

講師：河野 克彦(島根県立美術館専門学芸員・本展企画者)

会場：島根県立美術館ホール(95 席/当日先着順)

▷通常の半分の定員で開催

申込方法

次のワークショップは申込が必要です。

▷A「Sky House New!!」

▷B「着せ替えドミノ」

申込先：sam@pref.shimane.lg.jp

件名：参加するイベント名

本文：参加者の下記の内容を記載のうえ、お申し込み下さい。

①氏名(ふりがな)・年齢/②住所/③電話番号

複数のイベントに申し込み場合は、1通にまとめず、
それぞれメールをお送りください。

申込締切：▷A=2月9日(火)、▷B=3月2日(火)

参加通知：締切後3日以内に返信をお送りいたします。

▷pref.shimane.lg.jp を受信できるよう設定してください。

■オンラインパネルディスカッションⅠ

「菊竹清訓のこころと手の記憶 / 山陰の建築への挑戦」

現在活躍する菊竹清訓建築設計事務所所員の

建築家たちとともに山陰の菊竹建築を読みとき、

菊竹清訓の人物像とその生き様に迫る。

パネリスト：

遠藤 勝勲(建築家、遠藤勝勲建築設計室)

内藤 廣(建築家、東京大学名誉教授)

長谷川 逸子(建築家、長谷川逸子・建築計画工房)

コーディネーター：

斎藤 信吾(建築家、あかるい建築計画)

■オンラインパネルディスカッションⅡ

「巨大は細部が宿すか？ 菊竹清訓の建築を、 架構と加工の点から考える」

圧倒的なスケール！その構想力を実現してきた菊竹清訓の

技術への視座を、「架構」と「加工」ふたつの

キーワードをもとに3人の建築家と語り尽くす。

パネリスト：

福島 加津也(建築家、東京都市大学教授)

森田 一弥(建築家・左官職人、京都府立大学准教授)

秋吉 浩気(建築家、VUILD CEO)

コーディネーター：

本橋 仁(建築史家、京都国立近代美術館特定研究員)

▷最新の情報は当館ホームページ等をご確認ください。

Special Exhibition

Kiyonori Kikutake San'in and Architecture

Friday, 22 January–Monday, 22 March 2021
Shimane Art Museum

Opening Hours

[January - February] 10:00–18:30

[March] 10:00–30 minutes after sunset

(times vary depending on day)

Closed every Tuesday

Admission

Adults ¥400 University students ¥250

Free for elementary, junior high school,
and senior high school students

*Set Ticket Price (special exhibition and museum collection)

*Presentation of a valid passport or

Residence Card entitles international visitors to
the above 50% discounted admission fee.



■次回展覧会予告

「生誕100年 回顧展 石本 正」

2021 年 4 月 2 日[金]－5 月 24 日[月]

■毎週木曜日午前中は「かぞくの時間」、詳しくは当館 HP で。

かぞくの時間

こどもといっしょの鑑賞優先時間

■@shimanekenbi



本展特別図録

ミュージアムショップでは本展特別図録

(予価 2,500 円[税込]) を販売します。

オンラインショップでも販売予定。

<https://www.sam-museumshop.shop/>

日時指定入場券

感染症対策のため、ご観覧の前に日時指定をお願いいたします。

一般 600 円/大学生 400 円/小中高生 無料

▷当館コレクション展観覧料を含む

▷お支払いはいクレジットカードおよび d 払いとなります

■日時指定・入場券の購入はこちらから



次の観覧料無料の方も日時指定が必要です。

▷小中高生の学校教育活動での観覧は無料

▷身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を

お持ちの方、及びその付添の方は無料

◎当日定員に空きがある場合は、

館内にて日時指定当日券を販売します。

一般 650 円/大学生 400 円/小中高生 無料

◎パスポート会員の方は、事前の日時指定は不要です。

主催：島根県立美術館、TSK さんいん中央テレビ、

山陰中央新報社、SPS しまねグループ

特別協力：情報建築、文化庁国立近現代建築資料館

協力：学校法人 早稲田大学、国立大学法人 島根大学、

独立行政法人国立高等専門学校機構 米子工業高等専門学校

あかるい建築計画

後援：朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、

読売新聞松江支局、産経新聞社、

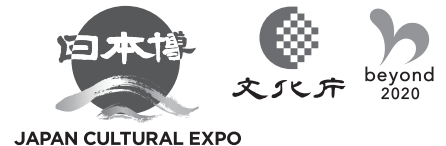
中国新聞社、新日本海新聞社、島根日日新聞社、

NHK 松江放送局、日本海テレビ、BSS 山陰放送、

エフエム山陰、山陰ケーブルビジョン

助成：令和 2 年度地域ゆかりの文化資産を活用した

展覧会支援事業



館内では新型コロナウイルス感染症拡大防止のため
対策を講じております。

また、状況により展示・イベントの内容が
変更となる場合があります。

最新の情報は当館ホームページ等をご確認ください。

島根県立美術館

〒690-0049 島根県松江市袖師町 1-5

TEL：0852-55-4700 FAX：0852-55-4714

<https://www.shimane-art-museum.jp>

[交通案内]

JR 松江駅から徒歩約15分

JR 松江駅から松江市営バス(南循環線内回り)6分

→「県立美術館前」下車

観光ループバス(レイクライン)→「県立美術館前」下車

山陰道→松江西ランプから車で約5分

[駐車場] ▷3時間まで無料

国道9号袖師交差点南進(駐車場から地下道をご利用下さい)

